

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月30日現在

機関番号：12608

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520006

研究課題名（和文） 自然再生への「市民参加」における風土性の倫理的価値構造に関する研究

研究課題名（英文） A Study in the Ethical Value Structure of Local Climate in the Process of Citizen Participation for Nature Regeneration

研究代表者 桑子 敏雄（KUWAKO TOSHIO）

東京工業大学・大学院社会理工学研究科・教授

研究者番号：30134422

## 研究成果の概要（和文）：

自然環境保全・再生型の社会基盤整備や地域づくり・まちづくりでは、事業を市民参加型で行うことが社会的なニーズになっているが、自然再生は、農山漁村地域で行われることが多く、こうした地域での社会基盤整備や環境問題では、地域の風土に根ざした生活を送る人々（地域住民）の参加が不可欠である。しかし、伝統的な価値観によって生活する地域の人びとに近代市民社会の人間像を期待した上での参加方式は、地域固有の風土特性をもつ日本の地域社会では極めて困難であり、むしろ地域の「風土性」に即した形での「市民参加・住民参加」が求められている。本年の成果は、地域社会の人々が社会的合意形成の主体として地域づくり等に参加する上での諸条件、とくに地域社会に固有の「自律性と協働性」「公共性」「資源管理およびリスク管理の配分の正義」等の倫理的価値の構造を理解するための重要な要素として、「局所的風土性」と「意見の理由の来歴」を含む地域社会での情報管理の重要性、および倫理的意思決定における行為の理解における「所与・遭遇・選択」の概念を明示したことである。これを踏まえて東日本大震災のもつ倫理的、歴史的意味についても考察を加えた。また、こうした理論的な研究を新潟県佐渡市、島根県出雲市、沖縄県国頭村などでの実践的活動に活用した。さらに、東日本大震災からの地域の復興に関して、農林水産省東北農政局の事業に対し、本研究の成果として得た知見を提供した。なお、本研究の成果を踏まえた新規研究「社会的合意形成における情報管理の倫理的価値構造に関する研究」が平成24年度科学研究費補助金の対象として採択された。

## 研究成果の概要（英文）：

Although it is thought that it is necessary for projects of nature regeneration in public works to make citizens engage in their processes, many of the projects of nature regeneration are carried out in rural areas. Local people are expected to participate in the projects, but it is difficult to design the process as in the case of urban areas, where people behave as modern citizen. Rather, in the case of rural areas, we should design the whole process as is matched to the characteristics of rural space, since local areas have their own concepts of autonomy, collaboration, publicity, justice of distribution of resources and burden of risks. This study made it clear that the projects of nature regeneration in rural areas should pay attention to the importance of information management based on the notions of local climate and history of reason behind opinions of people and offered a new idea of what is given, what is encountered, and what is chosen for ethical decision making in the process of nature regeneration. These ideas are proposed to some of the governmental organizations that are responsible for the reconstruction of the areas devastated by the Great East Japan Disaster in 2011. A new project entitled 'A study of ethical value structure of information management in the public consensus building' was accepted by JSPS as the next step of this study.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、哲学・倫理学

キーワード：倫理学原論・各論

市民参加・風土性・倫理的価値・合意形成・環境保全・再生

1. 研究開始当初の背景

現代社会において緊急の課題となっている自然環境保全・再生型の社会基盤整備や地域づくり・まちづくりでは、事業を市民参加型で行うことが社会的なニーズになっている。自然再生は、農山漁村地域で行われることが多く、こうした地域での社会基盤整備環境問題では、地域の風土に根ざした生活を送る人々（地域住民）の参加が不可欠である。しかし、伝統的な価値観によって生活する地域の人びとに近代市民社会の人間像を期待した上での参加方式は、地域固有の風土特性をもつ日本の地域社会では極めて困難である。むしろ地域の「風土性」に即した形での「市民参加・住民参加」が求められている。本研究の課題は、地域社会の現状に即した「風土的視点に立つ市民参加」の理論的基礎を明らかにすることにある。

2. 研究の目的

本研究は、地域社会の人々が社会的合意形成の主体として地域づくり等に参加する上での諸条件、とくに地域社会に固有の「自律性と協働性」「公共性」「資源管理およびリスク管理の配分の正義」等の倫理的価値の構造を明らかにし、これらの倫理的価値を自覚しつつ地域づくり等に参加する地域の人々の「風土的市民性」を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究の基本的な方法は、

(1) 文献研究

(2) 地域社会での文献調査・インタビュー・ヒアリングにもとづく倫理的価値概念の分析

(3) 概念の分析にもとづいた現代的な意義の解明と新たな解釈の提示の3要素から構成される。

4. 研究成果

地域社会の人々が社会的合意形成の主体として地域づくり等に参加する上での諸条件、とくに地域社会に固有の「自律性と協働性」「公共性」「資源管理およびリスク管理の配分の正義」等の倫理的価値の構造を理解するための重要な要素として、「局所的風土性」と「意見の理由の来歴」を含む地域社会での情報管理の重要性、および倫理的意思決定における行為の理解における「所与・遭遇・選択」の概念を明示した。これを踏まえて東日本大震災のもつ倫理的、歴史的意味についても考察を加えた。また、こうした理論的な研究成果を新潟県佐渡市、島根県出雲市、沖縄県国頭村などでの実践的活動に活用した。さらに、東日本大震災からの地域の復興に関して、農林水産省東北農政局の事業に対し、本研究の成果として得た知見を提供した。なお、本研究の成果を踏まえた新規研究「社会的合意形成における情報管理の倫理的価値構造に関する研究」が平成24年度科学研究機補助金の対象として採択された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計17件)

①高田知紀・梅津喜美夫・桑子敏雄、自然災害のリスクマネジメントに向けた一空間の価値構造に関する研究、災害リスク・ソリューションに関する体系的研究2011、査読無、2012、pp111-123

- ②桑子敏雄、環境再生への行程、環境思想・教育研究、査読無、No5、2012、pp95-100
- ③桑子敏雄、災害復興と合意形成、ARDEC、査読無、No45、2011、pp2-6
- ④豊田光世、桑子敏雄、生物多様性の保全に向けた感性のポテンシャル—環境倫理的視点からの考察—、日本感性工学会論文誌、査読無、10[4]、2011、pp473-480
- ⑤桑子敏雄、地震・津波・大規模汚染災害と再生のための合意形成、経済調査研究レビュー、査読無、No9、2011、pp2-6
- ⑥桑子敏雄、「国土空間の履歴」を読み解くための基礎資料—『地図で見る西日本の古代律令制下の陸海交通・条里・史跡』、生き物文化誌 BIOSTORY、査読無、No16、2011、pp110
- ⑦桑子敏雄、風景と人間—空間における「見る」「行く」「つくる」—、感性工学、査読無、10[1]、2010、pp10-17
- ⑧桑子敏雄、トキと共生する水辺づくり、FRONT MOOK、査読無、No5、2010、pp54-57
- ⑨桑子敏雄、国土政策と社会的合意形成のプロジェクトマネジメント—歴史と現場からの考察—、季刊 政策・経営研究、査読無、No16、2010、pp19-37
- ⑩桑子敏雄、合意形成の場における専門家の役割について、土木学会誌、査読無、96[2]、2010、pp45
- ⑪桑子敏雄、地域共同空間（ローカルコモンズ）の維持管理と再生のための社会的合意形成について、社会と倫理、査読無、No24、2010、pp49-62
- ⑫桑子敏雄、市民と行政が連携した多自然川づくり、河川、査読無、768号、2010、pp6-8
- ⑬桑子敏雄、環境哲学から海への提言、Ship&Ocean、査読無、No233、2010、pp4-5
- ⑭桑子敏雄、環境問題における意思決定と合意形成、「エコ・フィロソフィ」研究、4号別冊2、査読無、2010、pp47-56
- ⑮桑子敏雄、社会資本整備におけるアカウントビリティの向上、日刊建設産業新聞、査読無、2009、pp8-9
- ⑯桑子敏雄、コミュニケーションにおける合意形成と感性、電子情報通信学会誌、査読無、92[11]、2009、pp967-969
- ⑰桑子敏雄、医療倫理に関する研究行為の倫理性について—合意形成の観点から—、生命倫理、査読有、19[1]、2009、pp21-28

〔学会発表〕（計8件）

- ①Toshio Kuwako, The Profile of the Local and the Ethics of Consensus Building, International Conference on "Agricultural Ethics in East Asian Perspective", 2012.3.1, National Taiwan University

- ②Toshio Kuwako, Philosophy and Management for the Sustainability of the Commons, East-West Philosopher's Conference, 2011.5.20, University of Hawaii
- ③上田泰子、桑子敏雄、社会基盤整備におけるコミュニケーション・ツールとしてのドキュメンテーション—大橋川周辺まちづくり基本計画策定事業に関して—、第12回日本感性工学会大会、2010.9.12、東京工業大学
- ④豊田光世、桑子敏雄、生物多様性の保全に向けた感性的価値判断のリスクとポテンシャル—環境倫理的視点から—、第12回日本感性工学会大会、2010.9.11、東京工業大学
- ⑤高田知紀、豊田光世、桑子敏雄、河川整備事業における「局所的風土性」をふまえた合意形成プロセスの構築、第12回日本感性工学会大会、2010.9.11、東京工業大学
- ⑥Takada T, Toyoda M, Kuwako T, A study on the consensus building process for the Tenuoh River Restoration Project on Sado Island, URBIO2010 International Conference, 2010.5.20, 名城大学
- ⑦桑子敏雄、吉武久美子、豊田光世、高田知紀、地域空間資源が生み出す地域活性活動についての感性哲学的考察—トキ野生復帰事業における辺地での多元的交流・連携拠点モデル創出の試み、第11回日本感性工学会大会、2009.9.9、芝浦工業大学豊洲キャンパス
- ⑧高田知紀・豊田光世・桑子敏雄、トキの野生復帰に向けた天王川自然再生事業における合意形成プロセスの構築、土木学会全国大会、2009.9.3、福岡大学七隈キャンパス

〔図書〕（計10件）

- ①秋道智彌、桑子敏雄他、岩波書店、日本の環境思想の基層—人文知からの問い、2012、24-46
- ②香川知晶、桑子敏雄他、丸善出版、シリーズ生命倫理学2 生命倫理の基本理念、2012、207-222
- ③猪原健弘編著、勁草書房、合意形成学、2011、179-202
- ④篠原修編、桑子敏雄他、彰国社、まちづくりへのブレイクスルー 水辺を市民の手に、2010、158-178
- ⑤海保博之、松原望監修、桑子敏雄他、朝倉書店、感情と思考の科学事典、2010、236-238
- ⑥桑子敏雄他、東信堂、都市社会計画の思想と展開、2009、86-89
- ⑦桑子敏雄他、岩波書店、岩波講座・哲学08 生命/環境の哲学、2009、171-195
- ⑧桑子敏雄他、東京大学出版会、環境倫理学、2009、255-268
- ⑨桑子敏雄他、培風館、科学技術コミュニケーション入門、2009、38-53
- ⑩桑子敏雄、東信堂、空間の履歴、2009、175

[その他]  
ホームページ等  
<http://www.valdes.titech.ac.jp/~kuwako/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

桑子 敏雄 (KUWAKO TOSHIO)  
東京工業大学・大学院社会理工学研究科・  
教授  
研究者番号：30134422

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：